

里山資本主義の道のり

地域づくりの視点からの森・バイオマス

人と人、人と自然、世代と世代、
をつなぐ「バイオマス資源」



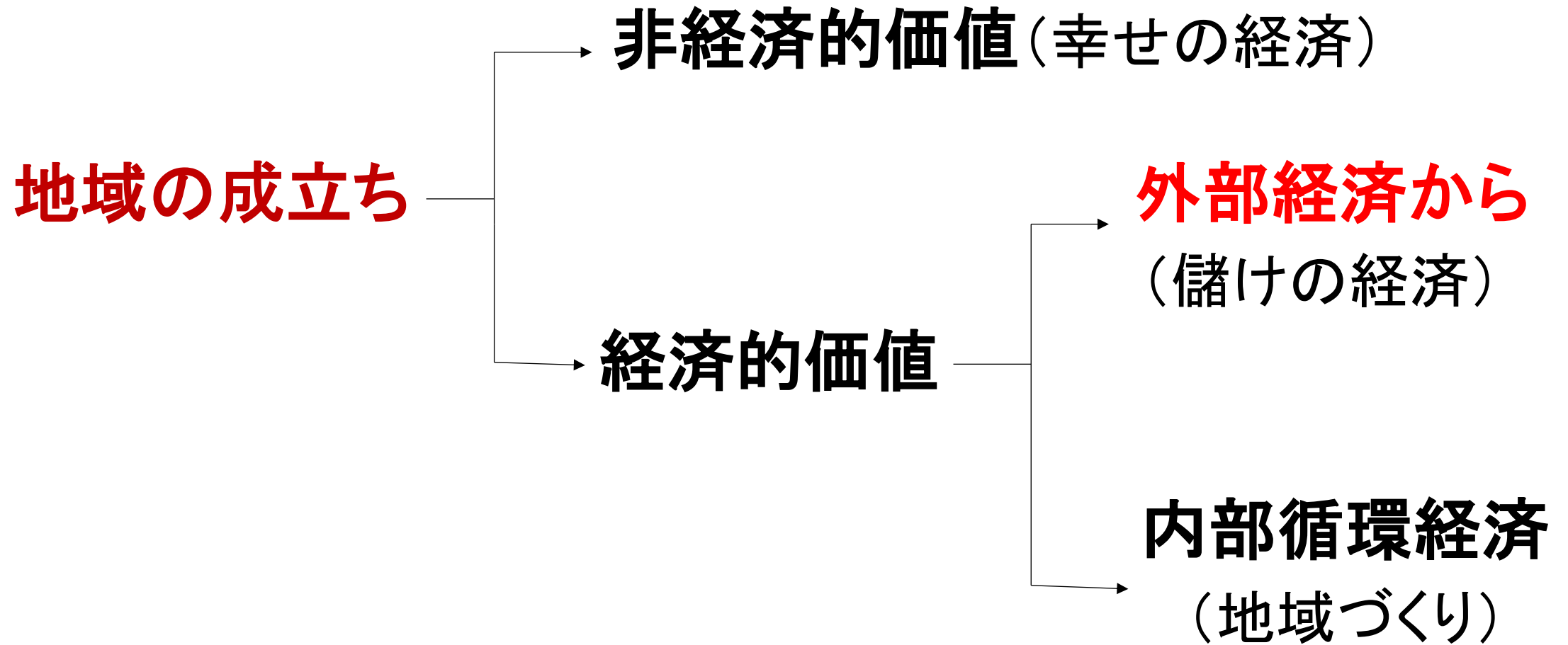
奈良県川上村、吉野地方の250年生の杉林

世代をつなぐ仕組みをつくれなにか？

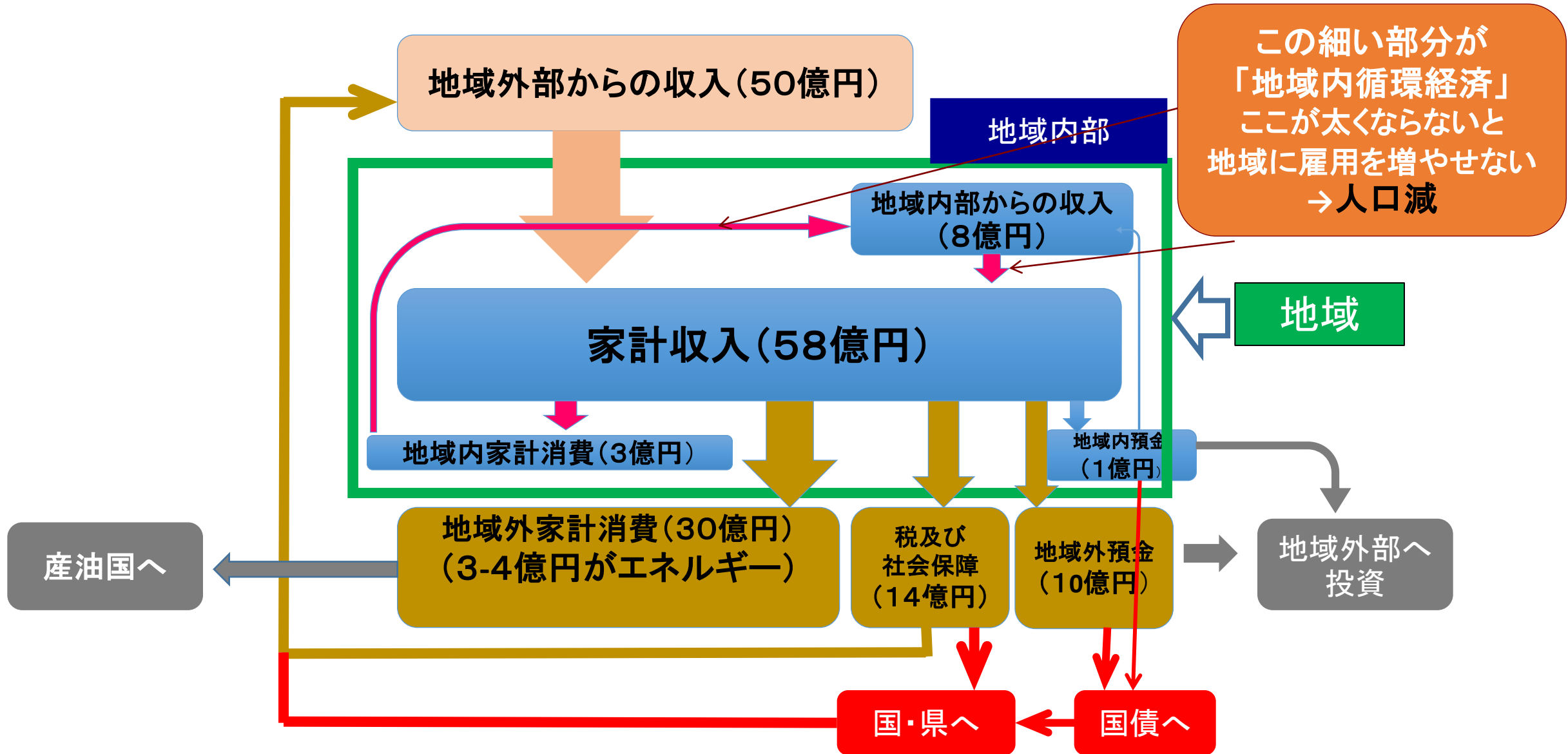
地域活性化には、世代の継続が不可欠！

「自治」とは何かを考えるきっかけ 「地域活性化」の現場での気づき

- ・産業の振興（生産性の高い**林業**・農業へのアプローチ・・・）
- ・工場誘致 ・施設建設（ショッピングモール、テーマパーク・・・）
- ・ブランド化（特用林産品、農産物、コメ、・・・）
- ・ネットショップの開設 ・グローバルマーケットへのアプローチ
- ・仕事場づくり
- ・観光振興 ・ふるさと納税 まだまだ、沢山のこと・・・



平均的な中山間地域、3000人集落(豊田市旭地区)のお金の循環



◆地域内でのお金の循環は殆どない。

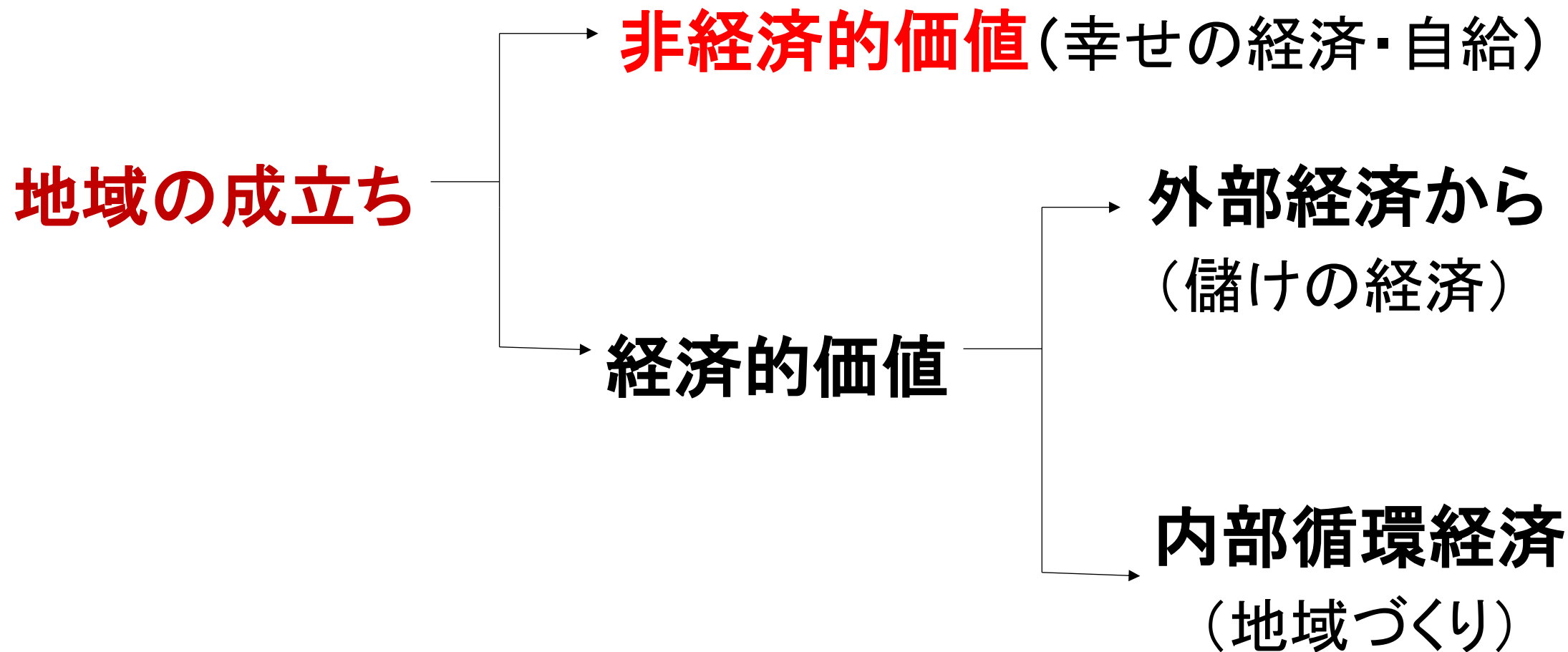
(総理府統計局消費動向データ)

結局、**地域**は**都市**のベッドタウンか？

その仕組みは、持続可能なのか？

生存の基盤（食料、エネルギー）は地域にあるのに・・・

地域とはどのようにして生きてきたか



地域の共感(幸せの経済・経済統計にあがらない)

- **食料・エネルギー**の自給、採集、交換（自分を養い、分け合う）

- **結**、普請、共同作業（草刈、お宮の維持、田植え、屋根吹き・・・）

- 見守り、人と人のつながり、**寄り合い**

- **祭り**（社会教育、人材の育成・確保）

⇒ **関係性づくりの仕組み**

- **水**の共同管理、**共有林**(財産区)の管理

- **文化**（神楽、農村歌舞伎・・・）

共感の範囲(地域)、

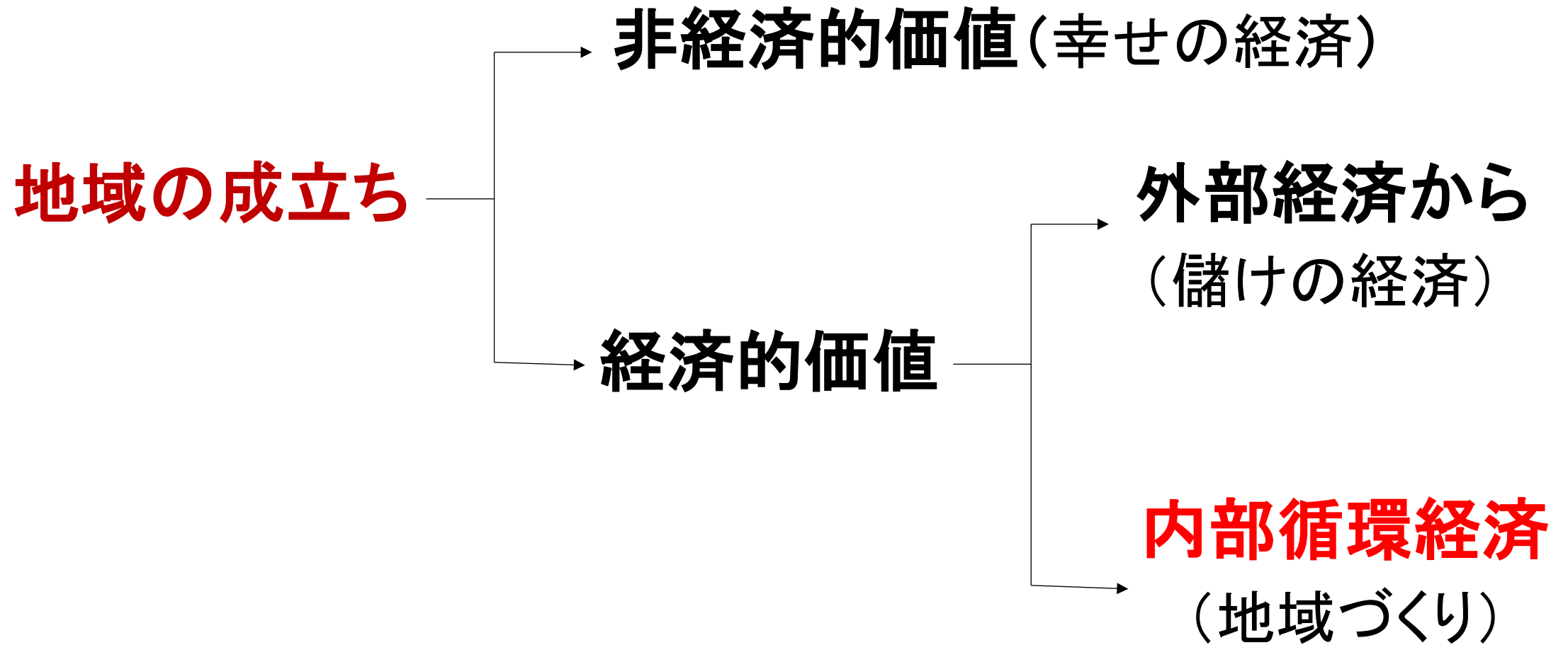
- **自然、景観、風景**

個人の幸せ、を構成する重要な要素

- **心**の置き方(風習、風土、価値観)

- **郷土愛、誇り**

- 先祖、**神様**、祖霊、山の神、庚申・・・



内部循環経済の拡大

地域内循環経済の構築

住民自治には**地域経営**という視点が必要、

外からお金を稼ぐだけでは、地域は豊かにならない。

地域内でお金を循環させる仕組みが、**不可欠**！

地域内循環経済の基礎（60年前までは当たり前）

エネルギー、食料、水、医療・福祉、教育、安全、公共工事、娯楽、

などの、自治（地域経営）、自給

- **食料費**

地域商店の利用拡大、地域食材・食品の地産地消
地域通貨（木の駅と森券）、地域内米価（鳴子米）、
6次産業化（パンの消費は1万円/人、1000人で1千万円）

- **エネルギー費**

確実に、地域外へ（国外へ）出て行っているお金
新規事業のための、資金調達を考えるか、
出て行くお金を、地域内で循環させるか。（**里山資本主義**）

- **娯楽**

カフェ、飲み屋、カラオケ、サロンなども、内部経済の重要な要素

- **地域木材の利用**

1000人集落では住宅約300戸、100年に一度建て替えても、

毎年約3戸の新築。その他、薪、チップ、ペレット…

地域材で家を建てると、地域に大工(雇用)が育つ

- **医療費、福祉費**

互助・共助・公助の確認

医療と福祉の壁の撤廃（電子カルテ化）

地域包括ケアー

- **教育費**（高校で300万円、大学で1000万円）

塾の開設、廃校を学校に。若者の新たな価値観を育てる。

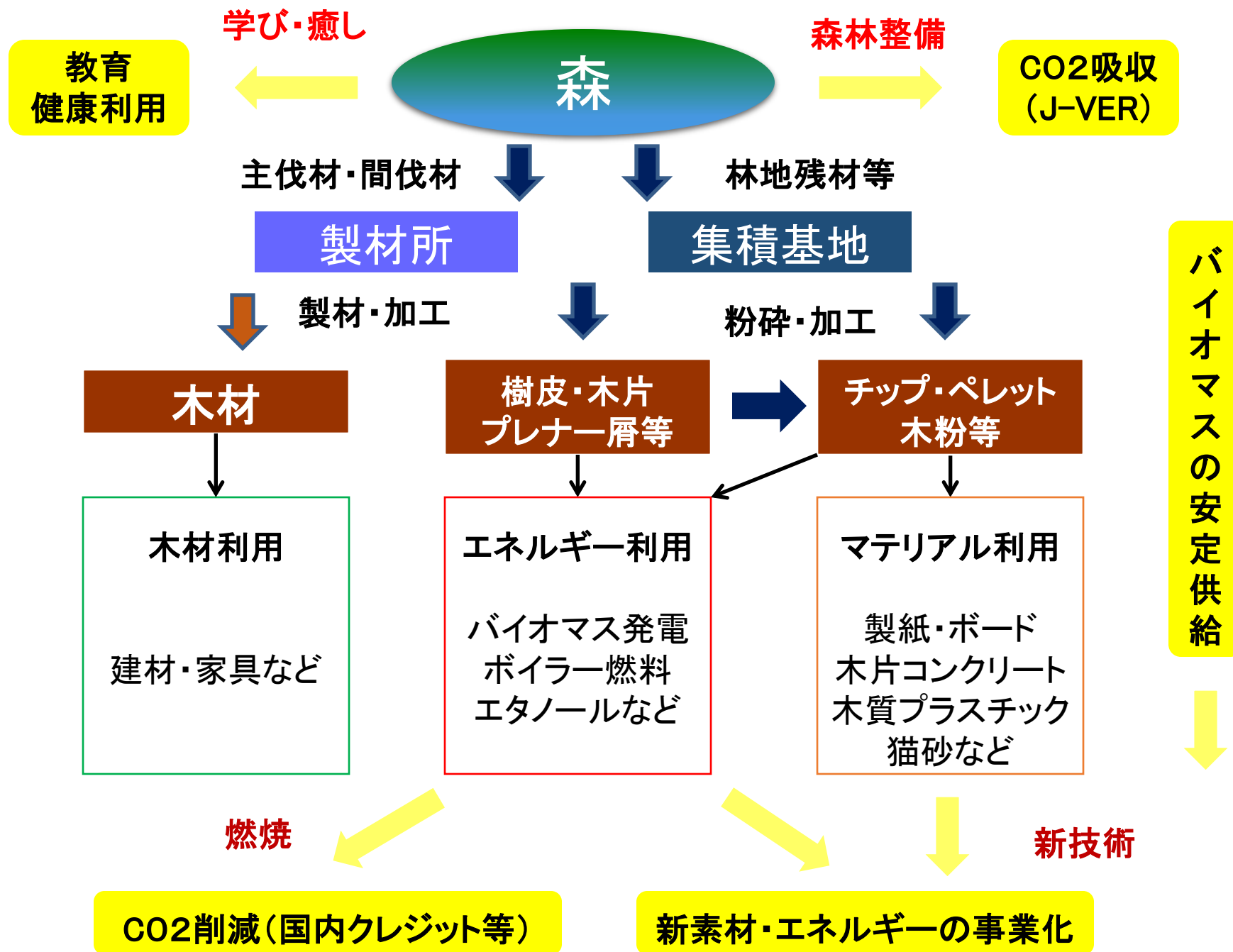
人材の育成・・・遠回りだが、一番の早道



山から町へ



バイオマス



里山資本主義ー木材と木質バイオマスを活用した産業づくりー



◆地域内エネルギー**自給率62.3%**
(内、発電**32.4%**)

◆経済効果・市内バイオマス産業により、
産業生産額が **年間52億円増加**

- 地域外購入→地域内生産消費
関係者の連携による、配送システム確立と
エネルギーの自給
- 木質バイオマス活用→森林資源の見直し
林業の活性化と山村の再生
(**3億円以上が山に**)

木質バイオマスの学び

- **木**は、かさ張る、汚い、重い(**煩わしい**) → **地域内消費**がベスト
- ボイラー選定などの利用方法より → **収集・運搬システム**が重要
(**誰が、いつ、いくらで、どのように…地域で決定、地域の自治**)
- 地域内の連携が不可欠 → エネルギー・素材事業のように見えて、
内実は、**地域づくり事業**(**関係性作り**)

価値とは何か？ 価格とはだれが決めるのか？

小さな里山資本主義

真庭市中和地区の取り組み（人口670人）







赤木 直人(あかぎ なおと)

1979年生まれ、大阪出身。

学生時代は岡山で過ごし、大学を中退後、**雑貨専門店**に入社。

岡山店所属時に妻と知りあい、子供の誕生をきっかけに、**妻の出身地**である、岡山県真庭市蒜山(ひるぜん)中和地域へと移住。

2015年5月、**薪の供給**と、
地域振興を目的とする
一般社団法人アシタカを設立。



現在の思い

真庭市に住んで7年目に、（一社）アシタカを設立しました。

それまで、住んでいる集落の事は分かっていましたが、

わずか人口650人、250世帯の中和地域の事は、

全く分かっていませんでした。

立ち上げ当初、その人の顔と名前、そしてその家族の状況まで

わかる方は、15世帯ほど。

1年たった現在、70世帯ほどの方は分かるようになりました。

650人という小さなスケールだからこそできる事があります。

わかる事があります。

5年後には地域全員の顔が見れるようになりたいと願います。

地域にお金を留まらせるため、地域の温泉施設が灯油ボイラから薪ボイラになりました。

それからすべてはスタートしていますが、

お金の地域内循環が大きな成果ではなく、

これをきっかけに**たくさんの方が関り**、そこに**話題が生まれ**、

昔のような**協調する仕組み**（自治）ができた事、

これが一番の成果であると思います。

赤木 直人

無縁社会の本質

「無縁社会」 = 関係性の遮断 = 他者への「無関心」「無視」

今だけ、お金だけ、自分だけ

愛の枯渇した状態

「愛」の反対は、憎しみではなく「無関心」

(マザー・テレサ)

「愛」のきっかけは、「興味を持つ」こと！

人の愛は、その場、その時に伝わり、共感が生まれる。

そこに一緒にいる。五感六感を共有する。

人と人、人と自然、世代と世代が、

お互い、関心と共感を持ち合う社会が持続可能

「経験の共有が共感を作る」、そして「その共感が地域を守る」

「**貧しい人とは、少ししか持っていない人のことではなく、
もっともっとと、際限なく欲しがる人、いくらあっても満足
しない人のことだ**」 (ウルグアイ、ムヒカ大統領 2012 リオ+20)

環境問題の根源は、都市の**消費の形、豊かさの尺度**

欲望に歯止めがかからない。(自足のかたち)

際限なく欲しがるマーケットを育てることが、

経済活動の目的になる矛盾

「共感」は「もっともっと」に代われるか？

金融資本主義の次に来る価値基準

イチローの世代、大谷の世代

労働の**意味**の変化(戦後70年～現在)

「 GDPを向上させるための労働 」

(経済的価値のための労働)

経済的価値を重視して生きることが**幸せ**、という価値観。

戦後、復興のための経済を建て直し、生産性を上げることが不可避。



専業主婦は労働ではない、育児も、介護も、重要な労働とは言えない。

年収は高い方が幸せ。どの会社に勤めているか、が社会的ステイタス。

大企業の方が中小企業より大切に社会的価値が大きい。 **高度経済成長期の論理**

費用対効果で表せないものは価値ではない・・・ **関係性を価値とは認めない。**

(現在～これからの20年)
「 **生きる意味を問う労働** 」
(**meaning of life**)

地に足が付き、コミュニティの中で**必要とされ**、

自然の中で、その**恵み**を得ながら、**必要最低限のモノ**を持つ暮らし。

多くの**人**と、**世代**がつながっている社会を実現する… **関係性は重要**

お金より**共感**や**協働**。共感できなくても、**共生**(そのための、自治)。

Do より **Be** が大切。働くことは、生きること。

お互いが持つ**弱み**を許容し、そこから社会づくりを考える…

人生は、「**職業選択**」ではなく「**生き方づくり**」

豊かになった国「日本」は、

幸せになったのか !?

あなたの2030年8月11日

- 家族構成、家族それぞれの年齢、属性(職業、学校、主婦・・・)
- どんな部屋に住み、どんな所で暮らし、窓から見える景色は、あなたの住まいはどんな処？
- 朝食の食卓には誰がいて、何を食べる
- どんな稼ぎ、どんなつとめ、どんな学びや遊びの場
- どんな行政
- どんなお弁当、昼飯
- 夕食の食卓には誰がいて、なにを食べる
- アフター5は何をする、あなたの趣味は、こだわりは
- 2030年、この地区の自慢
- 2030年、この地区の風景、何が変わり、何は変わらない
- 2030年、あなたの幸せ、家族の幸せ、コミュニティーの幸せ
- あなたのつとめとカセギ、くらし DoとBe そして Well-Being

対極ではない都市と地域

都市の問題は、都市だけでは解決できない。

地域の問題も、農山村振興策だけでは解決できない。

日本の問題も、グローバルマーケットだけでは・・・

⇒ 環境・経済モデル + 生き方・働き方モデル

(ビジネスモデル、起業、環境保全)

(価値観づくり・人づくり)

経済的豊かさだけを求めない、「未来の社会」「幸福」「生きがい」を皆で考え、実践する。

地方創生は、経済創生ではなく社会創生